



NO. 2

H31. 4. 19 常盤小学校 中澤智恵子

「面接の5つの技法」

参観日、お疲れ様でした。来週は家庭訪問が始まります。教頭先生の週予定にもありましたが、まずは、話を上手に聞きましょう。昨年も通信でご案内しましたが、新しい先生方もたくさんいらっしゃるので、もう一度確認しましょう。面接の技法についてです。

(1) 受容（単語の繰り返し、うながしを含む）

相手の話をとにかく良く聞く。相手の目で、相手の世界を見ることが必要になってくる。教師は受容することで自分の考えに固執せず、保護者と同じ考えをもつことができる。また、保護者は受容されることで、教師を受け入れる。咎められることがないので自己肯定感が高まる。

(2) 繰り返し（言い換え）

繰り返しとは、聞いたことを繰り返すことであるが、この方法で保護者の自問自答を促進することができる。例えば、朝の支度が遅くてつい母が手を出してしまう児童についての話を聞いたとする。「お母さんは、〇〇さんに自分でできるようになってほしいのですね。」というように言い換えをする。繰り返しがうまくいくと、保護者は分かってもらえたという感じがする。また、繰り返しをしているうちに自ら答えを見つけることもある。

(3) 明確化（感情・意味の反射）

明確化とは児童や保護者が言葉にしていなくても、潜在的に気付いていることを教師が言葉にしてやることである。

(4) 支持

教師が児童や保護者に「私もそう思うよ。」「みんな、そうだと思うよ」などと言う方法である。この方法は自己受容を促進する。

(5) 質問

質問をする場合のねらいは3つある。1つ目は情報収集、2つ目はリレーシオンづくり、3つめは相手に考えさせる時間を与えることである。問題をつかむためには芋蔓式に聞いていくこと。そして、聞かれて嫌なことは後回しにすること。そして自分の立場を利用して好奇心を満たすようなまねをしないこと。

これらの中からいくつかを使い分け、良好な人間関係がつかれるようがんばりましょう。(^^)/